

(調査報告書)

国名	レソト王国および南アフリカ共和国
プロジェクト形成調査地	レソト王国（マセルほか）、南アフリカ共和国（ヨハネスブルク、プリトリア）
プロジェクト名	干ばつ被災者支援事業（レソト）、エイズ関連事業（南アフリカ共和国）
事業概要	地球温暖化による気候変動で、高い気温と少ない降雨量が重なったことにより、レソト王国では近年で最も厳しい干ばつが発生。2007年7月にレソト政府は食糧危機を宣言、国際支援を求めた。食糧危機によって、小児や妊産婦といった脆弱層に悪影響が及んでいる。ケア・インターナショナル ジャパンはこの状況を踏まえ、干ばつ被災者支援事業実施のための調査を行った。
調査者	武田 勝彦
調査期間	2007年12月3日～2007年12月12日（10日間）

【プロジェクト形成調査の概要】

レソトの成人 HIV 感染率は、UNAIDS によると世界第 3 位 23.2%と、国民のおよそ 5 人に 1 人が HIV に感染している。さらに、エイズ孤児は 97,000 人にも上り、その数は総人口のおよそ 5.4%にあたる。現在、CARE レソト事務所では、孤児や脆弱な立場にいる子どもたちに、持続可能な食糧へのアクセスという基本的な人権を軸に、学校での野菜栽培、校舎の屋根を活用した雨水利用による食物栽培、小規模貯蓄・貸付制度を実施している。今後、より効果的な支援を行うための総合的なアプローチを検討し、校舎の屋根を利用し集めた雨水を利用した簡易灌漑施設の導入、養蜂、そして HIV/AIDS についての啓発活動が考えられている。

このように HIV/AIDS で脆弱な同国では、地球温暖化による気候変動で、高い気温と少ない降雨量が重なったことにより、この 30 年の中で一番厳しいレベルの干ばつが起こった。レソト政府は、2007 年 7 月 10 日に食糧危機 を宣言し、国際支援を求めた。同月 28 日には国連から緊急アピール(Flash Appeal / CAP) が発表された。農業生産の減少、農業関連での労働機会の減少、レソト国内・南アフリカ共和国のメイズの価格高騰により、総人口 180 万人の 3 分の 1 に当たるおよそ 553,000 もの人々が一年間の食糧ニーズを満たすことができないと見積もられている。

本現地調査では、関係者への聞き取りおよび報告書など客観的な資料の分析を行った。調査により、以下のことが明らかになった。これにより、栄養面での問題があり、緊急支援の必要性があると判断した。①国連による緊急アピール発表後、緊急支援は行われているが、その支援はアクセスの良い平野地域に集中している。②緊急アピール後の緊急支援のうち、食糧支援は 63%を占めるが、その食糧支援のほとんどが主食メイズの配布で、栄養のバランスが悪い。③5 歳以下の子どもの栄養状況に悪影響が出ており、低体重が 18.4%から 20%、慢性的栄養失調が 18.4%から 20%、急性的栄養失調が 2.4%から 6%へ上昇している。④緊急アピールの中の重点支援分野のうち、「子どもの保護」と「早期回復」分野にはまだ支援が行われていない。特に「早期回復」分野は、その重点を、「生活の手段や資産を得て生活できるような回復プロセスを生じさせ、持続的発展に繋げていくこと」としており、復興・開発の素地を作るニーズはあるが満たされていない。⑤ニーズのあるセンク川渓谷では、他の団体が同様な活動を行っているが支援対象数が限られおり、支援が十分に届いていない。

### 【今後の事業形成の展望】

レソト事業に関しては CARE レソト事務所と調整しながら、ジャパン・プラットフォームなどのドナーに申請していく。一方、南アフリカ共和国での事業に関しては、次回調査で形成を行う。

### 【調査日程】

12/3 (日)	成田発 (香港経由)
12/4 (火)	ヨハネスブルク着、在南アフリカ日本国大使館へ表敬訪問
12/5 (水)	ヨハネスブルク発 マセル着、CARE 南アフリカ事務所と調整
12/6 (木)	現地 NGO 事業視察
12/7 (金)	現地 NGO 事業視察、マセル発 ヨハネスブルク着
12/8 (土)	
12/9 (日)	
12/10 (月)	JICA 南アフリカ事務所へ表敬訪問、CARE 南アフリカ事務所と調整
12/11 (火)	ヨハネスブルク発 (香港経由)
12/12 (水)	成田着

### (調査報告書)

国名	レソト王国および南アフリカ共和国
プロジェクト形成調査地	レソト王国 (マセル、ハセカケ)、南アフリカ共和国 (ヨハネスブルグ、ロスリン、サントン、プリトリア)
プロジェクト名	干ばつ被災者支援事業 (レソト王国)、エイズ関連事業 (南アフリカ共和国)
事業概要	レソト王国では、地球温暖化による気候変動で、高い気温と少ない降雨量が重なったことにより、近年で最も厳しい早ばつが発生。2007年7月にレソト政府は食料危機を宣言、国際支援を求めた。食糧危機によって、小児や妊産婦といった脆弱層に悪影響が及んでいる。ケアインターナショナル ジャパンはこの状況を踏まえ、早ばつ被災者支援事業実施のための調査を行った。 南アフリカ共和国では、日系企業の工場周辺のコミュニティにおいて、青年期男女を対象にした HIV/AIDS 啓発を実施する。
調査者	武田 勝彦
調査期間	2008年2月2日～2008年2月16日 (15日間)

### 【プロジェクト形成調査の概要】

#### 1. レソト王国

CARE レソト事務所と協力 NGO との調整、プロジェクト地の絞込みと関係者との調整、日本人スタッフ駐在予定地や協力 NGO の拠点の視察を行い現地執行体制を確認した。

#### 2. 南アフリカ共和国

南アフリカは HIV/AIDS 感染率が高く、18.8%と深刻な問題となっている。特に若年層と女性の感染率が極めて高い。HIV/AIDS 感染の拡大は労働生産性の低下、母子感染による子どもの HIV/AIDS 感染や AIDS 孤児の問題へと広がり、保健医療上の問題というだけでなく、経済と社会の基盤を揺るがす問題となっている。こうした HIV/AIDS 感染の深刻化の背景に

は、貧困と関連した諸問題や女性の社会的地位が低いこと、出稼ぎや移動労働が多いこと等の問題がある。また、感染症に関する情報が十分にいきわたっていないことが感染症の拡大に加担している。HIV/AIDS 感染者の約 3 分の 2 を占める 25 歳以下のユース（若者）グループ、特に女子には、学校を中退してしまい、生活していくために必要な基礎的な能力が十分に開発されておらず、農村部から都市部に就労の機会を求めて出てきたものの、路上で生きるしか術がない人々も多い。また、女性は社会・経済的地位が低く、性交渉を強要されたり、感染予防のため交渉が困難であることから、感染リスクが拡大する傾向にある。人々の間に HIV/AIDS 等感染症や予防・支援体制に関する正しい知識が不足していることも大きな問題である。正しい情報が不足しているために、正しい対策が採られずに感染が拡大していく結果となっているため、特に感染リスクの高いユースを対象とした情報伝達の体制の整備は急務である。また、南アフリカ国には日本企業が数多く進出しており、これらの企業で働く労働者や周辺コミュニティの HIV/AIDS 対策の必要性が指摘されている。

このように深刻な状態にある HIV/AIDS 分野における案件発掘、特に、日本企業からの情報収集を行い、事業形成に向けて現地調査を実施した。まず、現地では、連携の可能性を探るため日系企業との会合を重ねた。CARE は、ベトナムやカンボジアにおけるエイズ関連事業で企業との連携により、労働者やコミュニティへの HIV 感染拡大の予防やキャンペーンに効果を発揮している。南アフリカの日系企業は CSR 活動の一環としてコミュニティへの支援をすでに実施しているが、内容は物資配布や車両寄贈にとどまっているため、今後 CARE との連携により更なる効果的な事業展開が可能と推察される。ART 支援といった成果の見えやすい事業に対し、教育や家計経済への支援は成果が見えにくく、ドナーによっては支援の対象とならないため、モニタリングと評価強化によりドナーへの説明責任が問われてくることが考えられる。

#### 【今後の事業形成の展望】

2 回に渡る調査の結果により、レソトでの事業についてジャパン・プラットフォームへ緊急支援事業計画を再申請し、4 月より活動が開始される予定。南アフリカでの事業は、今後も日系企業と CARE 南アフリカ事務所との調整を続行する。

#### 【調査日程】

2/2 (日)	成田発 (シンガポール経由)
2/3 (月)	ヨハネスブルク着
2/4 (火)	ヨハネスブルク発 マセル着
2/5 (水)	プロジェクト地の選定と視察、日本人スタッフ駐在予定地や協力 NGO の研修センター視察
2/6 (木)	同上
2/7 (金)	同上
2/8 (土)	CARE 南アフリカ事務所との調整、マセル発 ヨハネスブルク着
2/9 (日)	
2/10 (月)	
2/11 (火)	CARE 南アフリカ事務所との調整
2/12 (水)	Nissan Diesel, Nissan South Africa Ltd. 訪問
2/13 (木)	JETRO ヨハネスブルクセンター訪問
2/14 (金)	在南アフリカ日本国大使館、JICA 南アフリカ事務所への表敬訪問
2/15 (土)	ヨハネスブルク発 (シンガポール経由)
2/16 (日)	成田着

(レソト王国調査の写真)



事業対象予定地、センク川溪谷



協力 NGO 研修センター



ローカル NGO が支援している家庭菜園



円形菜園に水遣りをする様子



山頂にある水タンク



水タンクから村へつなぐパイプ